

一 古裂の整理

昭和二十九年度の古裂の整理は去る昭和二十六年十一月修理のため出
蔵した北倉納在東大寺屏風（古裂貼交屏風）二疊の修理と第八拾貳号横絹
絶類断爛の整理を主とした。その結果は左のとほりである。

一、東大寺屏風 二疊

東大寺屏風は天保七年御開封に際し東大寺において献物帳所載の御屏
風一百疊中大破せる屏風の骨を利用して新たに天平古裂を貼交風に貼
付して一雙としたものであつて、その仕立、接扇等はなほ古風を存す
る。

明治年間東大寺これを模造鳥毛文書屏風一疊と共に一横に納め還納し
たものである。爾来北倉に納めて保存されてゐたが、蠹喰破損甚しい
ので修理することになったのである。

屏風面には錦繡綾羅絹絶類の優品を蒐集して貼付してあつて、幡殘片、
天蓋殘片及同垂飾、箱のうちばり、接腰殘片等も含まれてゐる。今これ等
の古裂を剝取し帖及び接扇を脱し解体、天保修理の際の下張りの鹿布
及び笠紙、美濃浮張紙を撤して、新たに麻布を張り、其の上に宇陀紙、
石州半紙の浮張を施して、六曲屏風仕立は従前通り天平の古様に則つ

た。但し背は天保の姿をそのまま利用した。剝取した古裂は別に納器
を造り保存することとした。なほ右古裂の主なるものを列記すれば左
のとほりである。

緑地獅子花文錦幬身殘片

霰地唐花文錦

縹地唐花文錦琵琶袋殘片

主文に大唐花文を置き、これに花朶の枝幹を唐草様に配したもの。
裂地は重厚に織り成され文様の雄大華麗なること当代錦中の白眉で
あらう。この裂地は副文の全形が窺はれるものとして貴重な遺品で
ある。宝庫には主文を中心として琵琶形に裁断された同裂が存する
が、この断片もまた琵琶袋の殘闕と見做すべきであらう。（図版第
五）

紫地狩獵文錦

霰地唐花文錦天蓋飾

四弁花形の裁文で中央に円孔を穿つ。恐らくは裂地天蓋の天井に縫
付けた莊飾であらう。

紫地菱形文綴錦

縹地葡萄唐草文錦

茶地花卉双羊文錦幡身殘片

紫地花卉雲走羊文錦幡身殘片

紫綾地宝相華文刺繡天蓋垂飾

紫綾地に平糸で量綱に彩られた宝相華文を刺繡したもので、構図や色彩の妙は当代の特色を遺憾なく發揮してゐる。刺繡の遺品は少ないが完好のものは極めて少い。本品は文様の完備せるものとして珍とすべきである。その形状より推して天蓋縁の垂飾と考へられる。(図版第五)

白綾幡題箋殘闕

(朱書) 太上天皇(明) 忌御斎道(德) 幡(天平勝寶九歲) 歲次丁酉夏五月二日巳
西左(墨書) 幡 「東大寺」

花文白綾箱囀

草木鳳羊文白綾凹形鏡箱囀

樹下に双鳳を配した主文と、樹下に双羊を置く副文とを主題とし、その間隙に飛雲、山岳、草花、鳥蝶等を巧に布置した構図で、古裂中でも類品が少く珍重すべきものである。(図版第六)

縹地花鳥文夾纈羅

茶地花卉鳳凰文縹纈羅

茶地に舞鳳と樹木とを染出したもので、縹纈の手法が普通のものといふ点に注目する。

浅緑地目交縹纈羅

金銀泥彩絵縹

香袋の殘闕と考へられる。宝庫には小香袋七口を存するが、いづれも母指大のものでかゝる大形のものはこの殘闕を存するに過ぎない。福豆形をなし、口縁には紐を通した小孔が連なる。縹地に金銀泥、蘇芳、胡粉等にて文様を描き、裏は花文縹纈の羅を用ふ。(図版第六)

接腰殘片縫縹

(墨書) 東大寺女御接要(腰) 天平勝寶四年四月九日

一、紫縹袍單衣 一領

さきに第九十三号横調査の際布綿氈等塵芥中に紫縹袍殘闕を發見した。精査するに右殘闕は袍の右半身、端袖一と襟の三片あるに過ぎない。しかるにこれを、既に整理した第七十二号横絹縹纈類斷爛中の紫縹袍殘闕(左半身、両袖及び端袖二)と比較するとその色目、寸法及び裂地に至るまで両者の全く相合ふこと符節を合するが如くである。蓋し往古相分離してその所を異にしたものであらう。今彼此相合し袍一領とした。長一三五糎、袖一一四糎。

一、古裂帖 二十五冊第五三五号―第五五九号

第八十二号横絹縹纈類斷爛中より得たる錦類斷片四百二十九片、羅類三千百十二片、絹縹類二千七百九十六片を分貼した。

二 聖語藏経卷の修理

經卷の修理もまた前年の緒を継ぎ本年度においてその修理を完了したものは左のとほりである。

一、神護景雲二年御願經

第一三四号 根本薩婆多部律撰 拾卷

卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷七 卷八 卷九 卷十 卷十九

一、同 第一三五号 大宝積經二十卷の内 拾九卷

卷六十一 卷六十二 卷六十三 卷六十四 卷六十五 卷六十六

卷六十七 卷六十八 卷六十九 卷七十 卷七十二 卷七十三

卷七十四 卷七十五 卷七十六 卷七十七 卷七十八 卷七十九

卷百十八

右經卷は聖語藏經卷目錄には景雲二年称徳天皇御願經の部に列するが、いづれも御願文がない。しかし奈良時代末期に行はれた豊麗な書体や比較的大きい文字、罫幅の広さ、密陀撥形の軸などから推して、所謂神護景雲經と称せられるものであらう。修理の結果その軸端の失へるものは新たに之を補ひ、標紙の關失したるものも新補した。各卷の特徴を記せば即ち左のとほりである。

一、根本薩婆多部律撰橡染紙、赤密陀撥軸

卷一 卷首に大唐中興三歲聖教序がある。卷尾關失する。

卷二 卷尾關く。文中往々誤字及び落字を検出して欄外に白墨で指摘してゐる。当時經師によつて書写された經文を校生がいかに之を正したかを実証する好資料である。(図版第七)

卷五 この一卷は黄紙にして紫檀軸を用ひ、標騎縫に朱方印「東大

寺印」を捺す。書体、紙の長さ及び裝幀等より察するに景雲經と類を同じくするものではなく、寧ろ天平經に屬するものである。当初分類の際誤つて混入したものであらう。姑く記して後考に備へる。

卷八 卷末背書「二校高向如先」。大破甚しく卷中數紙を脱する。紙質また脆弱となつたため総裏打を施した。

卷十 卷中七十余行を脱する。

卷十九 卷末背書「二校大伴如」。卷首關失し、尾部七枚を存するのみ。

一、大宝積經黄紙、橡染標、赤密陀撥軸

卷六十一 卷末背書「二校大伴如」。事

卷六十七 卷末背書「二校」

卷七十一 卷末背書「之 无檢出 初校」

卷七十三 卷末背書「巧淨成 一校形見」

この經は經師即ち寫經生である巧淨成が書写し、校生辛国形見によつて一校を經たことが知られる。巧淨成(工清成とも書く)辛国形見は奈良時代末期に寫經事業に奉仕したことが正倉院文書に見える。(図版第七)

卷七十五 軸新補

卷七十六 標新補 卷七十七 卷首關 標新補

卷七十八 卷首關 標新補

三 御物の特別調査

(イ) 髹漆品調査

御物髹漆品の調査は昨年度より東京芸術大学教授松田権六、文化財専門審議会委員吉野富雄、東京国立博物館美術工芸課長溝口三郎、同漆工室長岡田譲、漆芸家北村久造の諸氏に依頼して始められ、主として漆皮箱を中心とした漆工品の製作過程及び技法を審らかにし、かねて斯界において問題となつてゐる当代の末金鏤、蒔絵の技法を究明せんとするものである。昨年度は北倉納在御物に就き調査を行ひ、本年度においては中倉及び南倉納在御物に就いて行はれた。

(ロ) 材質調査

この調査も昨年度より引続き動物、植物、鉱物の三部門に分ち、動物質には農林省輸出品検査所畜産課長石渡達六郎、国立科学博物館動物学課長滝庸、慶応義塾大学助教授森八郎、山階鳥類研究所長山階芳麿、植物質には関東学院大学教授大賀一郎、お茶の水女子大学教授大槻虎男、奈良女子大学教授清水卓二、東京大学理学部講師亘理俊次、鉱物質には国立科学博物館事業部長朝比奈貞一、京都薬科大学講師益富寿之助、名古屋大学教授山崎一雄、科学研究所主任研究員山崎文男の諸氏に依頼して行はれた。中に就て動物質部門に於ては鳥毛篆書屏風の鳥毛は日本

産の雉の羽を用ひられたことが略々明らかにすることができ、また鴨の羽毛の散見するのは元祿の修理に際し補つたものではなからうかと考へられるに至つた。元祿開封目録には、「鴨毛屏風」の名称を附せられ爾來鴨毛屏風と呼ばれるようになったのはかゝる経緯によるものであらうか。また鉱物質部門においては山崎文男博士によりラジオ・アイソトープを用い鉛ガラスの鉛含有量を調査される等材質の決定並びに産地の究明等其の結果に期待するところが多い。

四 御物のカラー・スライド及び古文書等

のマイクロ・フィルムの作製

御物の色彩保存を目的とするカラー・フィルムによる撮影は昨年度より始め本年も続いて行はれた。その撮影したフィルムは昨年度を合し一七六コマである。このカラー・スライドは将来編集の上研究及び教育資料として頒布せられる予定である。

古文書等のマイクロ・フィルム作成は正倉院文書が既に東京大学史料編纂所において大日本古文書として出版され学界に寄与する所尠くないが、近年原形による研究が要望せられてもゐるので、正倉院文書等の複本を作ると共に、その複写は学界に頒布して研究資料に供するを目的とする。本年度撮影を了したものは左のとおりである。

正倉院文書正集 四十五卷 第一卷—第四十五卷
続修正倉院文書 十 卷 第一卷—第十卷

四 保存修理室の落成

従来古裂及び経巻の修理は事務室の一隅において行はれてゐたが、場所の狹隘と設備の不完全なるため修理作業上不便を痛感されてゐた。よつて本年度に於て事務所北西の地に鉄筋コンクリート造平屋建の保存修理室の完成を見た。工を昭和二十八年十一月に起し同二十九年五月竣成した。建坪地階を合せ七一・八四坪、修理室、事務室、研究室、倉庫、

写真室、殺虫室の六室に分つ。

五 正倉院評議会

昭和二十九年年度においては、六月二十九日に第十三回の会議を開催、会員の移動報告の後、曝涼の方法、奈良国立博物館への御物の貸出、庫内の特別観覧、御物の特別調査、刀剣の手入および御物のカラー・フィルム撮影、古文書のマイクロ・フィルム撮影について審議した。